

両沼地方稲作情報 第6号

令和4年8月9日作成
令和4年8月31日更新

発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)
JA会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店
(有)山一米穀店、会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区

⚠️稲が徒長したほ場が多く見られ、風雨による倒伏が懸念されます！

○適切な水管理により品質向上・高温対策および適期刈取りに努めましょう。

○今年も米のモニタリング検査に御協力をお願いします。

1 気象情報(気象庁 東北地方 1ヶ月予報(8月27日から9月26日))

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

2 生育状況

主稈葉齢では生育はほぼ平年並です。葉色は、平年よりも淡い状況です。草丈や出穂期は、同一品種でもほ場条件や移植日によって差異が見られます。

表1：水稲作柄解析試験データ(会津地域研究所 8/17 時点) 移植日：5/19、栽植本数：20.8株/m²(30cm×16cm)

| 品種名 | | 草丈(cm) | 茎数(本/m ²) | 主稈葉齢(葉) | 葉色(SPAD値) | 出穂期 |
|--------|-----|--------|-----------------------|---------|-----------|------|
| ひとめぼれ | 本年 | 81.9 | 644 | 12.9 | 32.1 | 8/1 |
| | 前年 | 87.5 | 628 | 13.0 | 37.7 | 7/27 |
| | 平年比 | 95% | 102% | ±0 | -5.1 | +3日 |
| 天のつぶ | 本年 | 78.6 | 579 | 12.1 | 33.3 | 8/3 |
| | 前年 | 81.8 | 592 | 12.1 | 37.6 | 7/30 |
| | 平年比 | 99% | 99% | ±0 | -4.5 | +3日 |
| コシヒカリ※ | 平年値 | 88.0 | 564 | 12.9 | 30.8 | 8/4 |

※草丈、茎数、主稈葉齢、葉色は7/26時点の数値である。

※コシヒカリのデータは欠測のため、平年値のみを記載した。

3 品質向上対策

(1)落水時期について

開花後25日間は米粒が急速に肥大しますので、間断灌漑により少なくとも出穂後30～35日は水を切らさないようにしましょう(ほ場の土壌条件や気象によって落水時期を調整)。

(2)適期刈取りについて

出穂後日数及び出穂後の積算気温を参考に収穫作業計画を立て、**実際の籾の黄化率を確認して適期刈取りを行いましょう(図1)。**



図1 収穫日の判断のしかた



図2 黄化率90%の稲穂

～刈取り時期の目安～

- おおむね出穂後40～45日
- 出穂後の積算気温が950～1050℃に達した日
- 籾の黄化率が80～90%になった時期

表2 出穂後の積算気温（予想を含む）に基づく刈取適期到達日

| 品種 | 出穂期 | 到達日(予想) | | | |
|--------------|-------|---------|--------|--------|--------|
| | | 950℃ | 1,000℃ | 1,050℃ | 1,100℃ |
| ひとめぼれ(平坦部) | 8月4日 | 9月12日 | 9月14日 | 9月17日 | 9月19日 |
| コシヒカリ(平坦部) | 8月8日 | 9月17日 | 9月20日 | 9月22日 | 9月25日 |
| ひとめぼれ(山間部) | 8月3日 | 9月15日 | 9月17日 | 9月20日 | 9月23日 |
| 直播コシヒカリ(平坦部) | 8月12日 | 9月23日 | 9月25日 | 9月28日 | 10月1日 |

※8月29日までは実測値(日平均気温)を、それ以降は日平均気温の平年値(過去30年間)を使用した。

※平坦部は若松アメダス、山間部は金山アメダスのデータを使用した。

※出穂期は、会津坂下農業普及所で実施している作柄概況調査の今年度の出穂期を使用した。

⚠️ 稲が徒長したほ場が多く見られ、風雨による倒伏が懸念されます！

- 倒伏により受光体勢の悪化および通導組織(茎)の損傷が発生します。
- 軽度の倒伏では、登熟遅延となるため、ほ場毎に登熟を確認し、適期刈取しましょう。
- 重度の倒伏では、登熟不良となり、収量・品質が低下します。
- 倒伏により地面に密着した籾は、冠水や降雨が続くことで穂発芽が発生しやすくなるため、その前に刈取しましょう。
(※「里山のつぶ」は穂発芽しやすいため特に注意！)



図3 水稲の倒伏ほ場

4 秋の稲わらすき込みについて

稲わらは貴重な有機資源です。燃やさずに、水田にすき込むなど有効に活用しましょう。生わらのすき込みは、土壌を柔らかくし、地力を増やす効果があります。

- (1) 稲わらのすき込みは、秋に行くことで春すき込みよりも腐熟が進み、土壌の強還元化による根腐れ等の生育障害が軽減されます。
- (2) 地温が高いほど腐熟は促進されるため、すき込みは収穫後可能な限り早く行います。また好気条件で効率良く分解が進み、表面に近いほど地温が上がることを等を考慮し、5cm程度の浅耕とします。
- (3) 必ずしも必要ではありませんが、石灰窒素(20kg/10a)等の窒素分を施用してからすき込むことで、稲わらの腐熟を促進させることができます。

米のモニタリング検査について

昨年同様に緊急時環境放射線モニタリング検査(抽出検査)を実施します。下記の点に御留意いただき、検査結果が公表されるまでの出荷・販売(無償譲渡を含む)の自粛に御協力をお願いします。

- 自粛要請中であっても、集荷によりJA等の倉庫へ運搬・保管することは可能です。
- 検査結果・解除情報は、以下からご確認ください。

福島県 水田畑作課 HP「令和4年産米・穀類の市町村別モニタリング検査の進捗状況」

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035b/daishinsai-kokurui-monitoring-shinchoku-r4.html>

- 生産者の皆様には引き続き、収穫・乾燥・調製時の異物混入による二次的な汚染防止などの取り組みにご協力をお願いいたします。

- 収穫作業の際は、コンバインの事故(転倒・巻き込まれ等)にご注意ください。
- 猛暑が予想されますので、水分補給をしっかりと行い、熱中症に気をつけて作業しましょう。